

Bonjour

ボンジュール!!

2017年
3月9日号

Vol.347



3月の見通し 株式市場は足取りも軽やかに

● 株式は引き続き強気

世界経済の拡大がリスク資産を下支えする環境が続いており、**株式の評価を引き続きオーバーウェイト(強気)とします。**

また、新興国の景気見通しが改善を続けること、新興国の中央銀行の大部分が金融政策の現状維持あるいは緩和を志向しているため、債券利回りのさらなる低下(価格は上昇)が見込まれること、バリュエーションが魅力的な水準にあることなどから**新興国国債の評価をアンダーウェイト(弱気)からニュートラル(中立)に引き上げます。**

世界経済は、各地域で拡大しているといえます。米国経済だけでなく、ユーロ圏経済も、政治リスクがあるものの、緩やかながら拡大を続けています。日本では、輸出の伸びを背景として景気先行指数が7ヵ月連続の上昇となった他、購買担当者景気指数(PMI)は4年ぶりの高水準に達していますし、**中国では、世界的な輸出拡大が景気のパラダイムを下支えし、同国の景気先行指数は2013年12月以来の水準まで上昇しました。その他新興国も、世界的な輸出拡大や米ドルの調達環境が改善したことの恩恵を受けています。**

● 3月に利上げか

S&P500種株価指数とNYダウ工業株30種平均指数は史上最高値を更新しました。世界的に景気見通しの改善が続いている他、トランプ大統領が画期的な税制改革案を発表する

と表明したことも寄与しました。トランプ政権は「有言実行」との市場の評価が、現在の株高を支えているといえます。

こうしたなか、市場では2017年3月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げが実施されるとの観測が急速に高まっています。米連邦準備制度理事会(FRB)には、ブレグジットを巡る英国民投票で利上げの先送りを迫られたという苦い教訓があります。欧州選挙前に利上げを実施しておきたいとの判断もあるようです。

● 日経平均、2万円突破の材料は?

株式市場は好調ですが、気懸かりな兆候も見られます。

トランプ政権が掲げる政策の実現性や欧州の政治リスクなどを背景に相場の先行き不透明感は依然として高く、投資家がリスク回避的な行動に出た際には、金融市場の値動きが大きくなる可能性もあります。

とは言え、トランプ政権の景気刺激的な政策の柱である減税および公共投資の拡大について詳細が明らかになるのはこれからです。3月中旬には予算教書の提出が予定されています。**内容次第では、19,000円前半で足踏みする状態が続いている日経平均株価が20,000円を突破する材料になるかもしれません。** 株価という鏡に、米国経済の拡大見通しが映し出されるか否か、注意深く観察していく必要があります。

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものではありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。